

探究講座⑦「探究活動でのプレゼン」

1. 本時の目標

- ・プレゼンの本質を「相手への贈り物」と定義し、聞き手の視点に立つ重要性を理解する。
- ・「口頭発表」と「ポスター発表」の役割の違いを理解し、状況に応じた使い分けを学ぶ。
- ・論理的な構成と視覚的に伝わるスライドデザインの原則を習得する。
- ・質疑応答を「研究を深める対話」と捉え、誠実に応答する態度を身につける。

2. 本講座で生徒に身につけて欲しいコンピテンシー

本講座ではプレゼンテーションを「聞き手への贈り物」と捉え、相手のニーズを最優先に考える姿勢を習得する。具体的には、問いから客観的データ、自らの考察へと至る「論理性」を身につける。また、図解や大きな文字を中心とするデザイン原則を学び、情報を視覚的に効果的に伝える「表現力」を養う。さらに、質疑応答を探究を深化させる対話と捉え、感謝を持って誠実に応答する「対話能力」を獲得する。

3. 本時の展開

探究講座⑦「探究活動でのプレゼン」 1 時間目

時間	学習の内容	教材・留意点
0	出欠確認 授業者登壇 (K.T 先生)	
5	プレゼンの本質「相手への贈り物」 ・プレゼンは自分の自慢ではなく、聞き手が「何を知りたくて」「何に興味があるか」を徹底的に考え、価値ある情報を「贈る」行為だと定義する。	スライド
10	2つの発表形式の違い ・ 口頭発表 ：スライドを使用し、一度に大勢へ届ける。時間制限が厳しく、難易度が高い。 ・ ポスター発表 ：対面・会話形式。興味を持った人と深く議論でき、柔軟な対応が可能。	それぞれの役割の違いを意識させる
15	伝わる「構成」 ・ 導入 ：リサーチクエスション（何を知りたいか？）を明確にする。 ・ 方法・結果 ：何を行い、どんな客観的データが得られたかを示す。 ・ 考察・結論 ：データから何が言えるか、「自分の言葉」で結論と今後の課題を語る。	「論理の繋がり」が説得力であることを強調
20	スライドデザインと発表者の態度 ・ スライド3原則 ：①1枚にメッセージは1つ、②文字は全て20pt以上、③文章を貼らず、図や表を主役にする。	「残念な例」と「良い例」を視覚的に比較提示する

25	・態度の極意：原稿ではなく聴衆を見る、自信を持って「演じる」、自分が一番楽しんで伝える。 質疑応答のシミュレーションとゴール共有 ・質問は「興味の証」と捉える。「ご質問ありがとうございます」と感謝から始め、答えられない場合は「今後の課題にする」と誠実に答える。 ・本日の講義をふまえ、「SSH 生徒研究発表会」の動画を視聴し、1年生のゴールをイメージする。 まとめと振り返り ・Google Form による授業アンケートの実施	Google Form アンケート
----	---	---

参考：令和6年度 SSH 生徒研究発表会発表動画(DVD)